

Web版

一本道

第1号 通巻71号

前住職・松本梶丸は『一本道』という寺報を発行しておりました。わら半紙にガリ版（謄写版）印刷した冊子で、昭和44年7月に第1号が出ています。

今の若い人たちにはガリ版印刷といつてもわからないと思います。ワープロもプリンターも無い時代の、個人での印刷方法です。薄い紙にロウを引いた原紙の上に原稿を敷いて鉄筆で書く

と、筆圧でロウが削れて孔ができます。原紙を謄写版枠に張り、ローラーでインクを押し出して紙に転写します。かなり手間も時

間もかかりますが、独特の温かみのある線に味があり、今でも当時を思い出すとインクの匂いを鼻孔に感じるよう思います。

当初6ページの寺報を、ほぼ毎月発行するというのはなかなかの熱量であり、若さだけでなく、何か己を突き動かすような強い衝動があったのではないか。今、改めて当時の『一本道』を読みますと、30歳の父の苦悩や憔悴や渴望のようなものが紙面からにじみ出ている風を感じます。

父はあまり丈夫な方ではありませんでしたから、その後『一本道』の発行も不定期になり、平成13年7月の第70号が最終号となりました。

本来ならば、住職を継いだ私が『一本道』も継承すべきでしたが、周囲の期待もあり何度か挑戦するものの挫折を繰り返すという体たらく。力量不足であった上に、何よりも課題に向き合う





真摯な姿勢が欠けていました。そこには到底、父の業績は越えられないという諦観のようなもの



があったように思います。

今回『本誓寺公式ホームページ』のリニューアルに際して

「これが最後の機会かもしれない」という思いがありました。

考えてみれば現代は50年前とは比較にならない恵まれた環境

が用意されているのです。デジタルな技術はまったく持たぬ身

ではありますが、Web版『一本道』を通して、多くの人に思い

を、願いを伝えていきたい。そしてそのことが私自身の成長に

もつながっていくのではないかと思うのです。

過去の『一本道』のスタイルを踏襲し、本誓寺でお話をいただいた講演録を柱として、住職の

コラムなどを挿みつつ、読み物として楽しいものにしていけたらと考えております。これから

も、お付き合いいただければ嬉しく思います。

2025年 10月 本誓寺住職 松本 純